

報道関係 各位

広島経済大学  
入試広報センター

## 地域を語り継ぐデジタルストーリーテリング・ワークショップ 開催のお知らせ 「吉本さんの人生メッセージ～原爆小頭症を患って～」

広島経済大学（学長 小谷 幸生）の土屋ゼミでは、地域の災害の記憶や文化の継承のためのデジタルストーリーテリングという「自己語り」の動画制作に取り組んでいます。制作プロセスを通じて、地域の理解を深め、自己や他者を伝えていくメディアリテラシーを身につけ、これからのメディア表現やコミュニケーションを考えていくことが狙いです。今回は名古屋大学の小川ゼミと合同で、原爆小頭症の方の人生を伝えるワークショップを実施することになりました。

つきましては、下記のとおり企画内容をお知らせいたしますので、ぜひ取材していただきますよう、よろしくお願いたします。

### 記

場 所：広島経済大学興動館 ゼミ 33、34 教室

日 時：平成 29 年 5 月 20 日（土）10：00～17：30

平成 29 年 5 月 21 日（日）10：00～17：00 ※詳細スケジュールは次頁

参加者：吉本トミエ 氏

広島経済大学経済学部メディアビジネス学科 土屋祐子研究室 3 年次生・4 年次生

名古屋大学国際言語文化研究科附属グローバルメディア研究センター 小川明子研究室 院生

きのこ会 長岡義夫 会長、平尾直政 事務局長

以 上

---

※お問い合わせ、取材のご用向きは事前に以下までご一報くださいますよう、お願い申し上げます。

（記事の内容について）広島経済大学 メディアビジネス学科 土屋祐子研究室 ☎082-871-1589

（取材の依頼について）広島経済大学 入試広報センター 平田・山本・住本・高田・藤永 ☎082-871-1313

## 趣旨・目的

吉本トミエ氏は、広島に原爆が落ちた昭和20年8月6日、市内に住むお母さんのお腹の中にいました。胎内被爆し、翌年2月に原爆小頭症を患って生まれてきました。妊娠早期に胎児が大量の放射線を浴びることで引き起こされる原爆小頭症は、身体や知的障害を伴います。吉川氏も先天的に右足の股関節脱臼があり、病気がちでした。様々な困難を抱えながら、両親の元を離れ大阪に移り住み、結婚や出産、離婚を経験。今は広島に戻って、県営住宅で娘さんと2人で暮らしています。

今回実施するデジタルストーリーテリング・ワークショップでは、吉本氏の半生について話をしてもらい、参加者全員で「吉本さんの人生メッセージ」を伝える「自己語り」動画を作成します。吉本氏の想いはどのようなエピソードやイメージで表せるのか、一緒に作品を生み出していく中で、原爆の影響、命や生の重み、人の経験や記憶の継承のあり方についてみなで考えていきます。

完成作品は <http://mediaconte.net/> で公開予定です。

## 実施スケジュール (★は吉本氏が参加予定の時間)

### ■ 5月20日 (土)

10:00～12:00

オリエンテーション：自己紹介、ワークショップ説明、グループ分け(3名×4グループ)、きのこ会の長岡会長と平尾事務局長の話(きのこ会と原爆小頭症のレクチャー)

13:00～15:00 ★

物語を生み出すための対話セッション：吉本さんの話(生まれてからこれまで)と学生によるテーマを掘り下げるための質問

15:00～17:30

ストーリー構成と制作準備：構成シートの作成・中間発表、素材(写真)収集

### ■ 5月21日 (日)

10:00～12:00

ストーリーの完成と制作準備：構成シートの修正、素材(写真)収集・加工

13:00～15:00 ★

制作：吉本さんの確認とナレーション吹き込み、編集

15:00～17:00

発表とふり返し

※本ワークショップの実施は、JSPS 科研費 JP15K00475「地域を語り継ぐ自己メディア表現とコミュニケーションについての研究」、JP15K00464「地域における社会的包摂とメディアをめぐる実践的研究」の助成を受けています。